負要集

一之下

多9
629
2

門 ヲ 9
乾
巻

貞要集一之下

九 爐真之臺子之事

附 四方盆皆目之事

一 往古の炉は長八寸七分半大田炭裏山にて有之に紙鴻作を
少々長八寸四方小編笠に但本臺子の下板幅を合寸有之
故に今の世の炉縁に風炉臺子を盆に置扱まゝ〳〵かゝる
故に紹鴎家号より以来四方盆に茶入を載て茶合に物て炉
臺子に紹鴎所為之を後家号を茶碗に略〳〵い家
易所為之世間より茶入袋り法経法ふ出るし
一 炉臺あり四方平にて荘中夏又空法に廣半寸に山てし四方平乃

猪口〜荘ひ壺子を作り底大きく中に壺子を安半目より
口〜時者其の方に丸を見せ炮烙の内寸を中
小壺子を安し

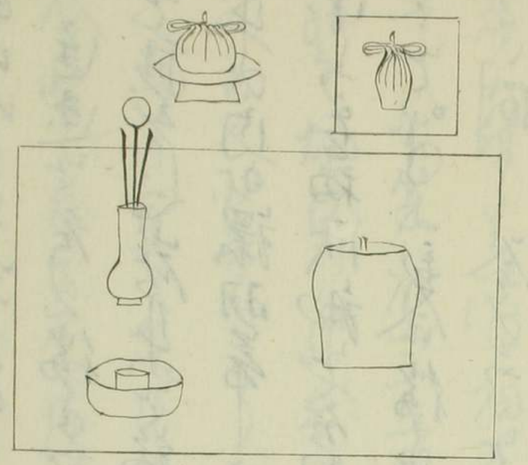
一床り荘い風炉壺子同前に掛物花活を種し

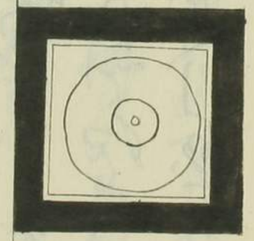
一壺子を夜を半〜三寸上割て表裏の方共下り真中小穴を
安る方に向て立小穴を穿て水滴を内〜安入て安
合し但道具の大小形恰好ふさ一荘て見付を記ふ
尺に成て合荘を行安し掛物と火箸を炭を所と為者
〜荘壺ヶ夏し風炉壺子の上に同前し

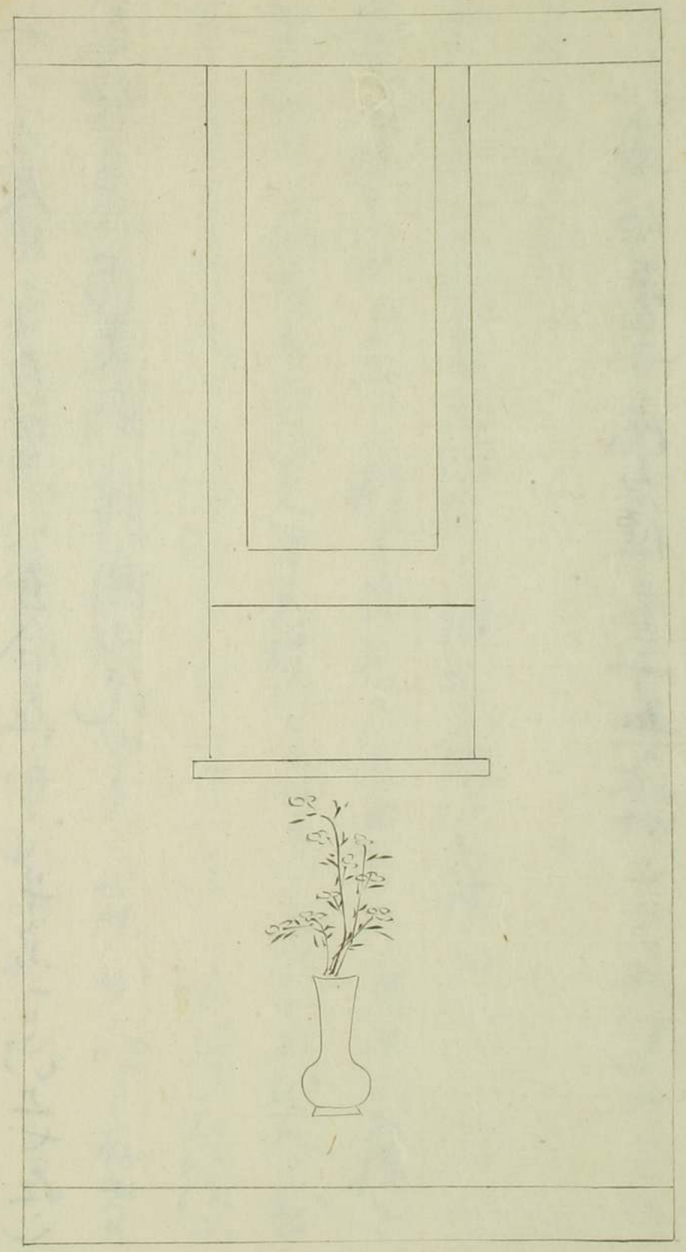
一壺子の上の口ふ底物の茄子の差入を安中〜四方盆に載る

名物の天目の壺を陶器の茶中に為て狸を入
其の方天目を為の方に新合荘を安し其ふ下に七荘
風炉壺子同夏別作図之通

真炮壺子床為種壺子五荘以上七荘也





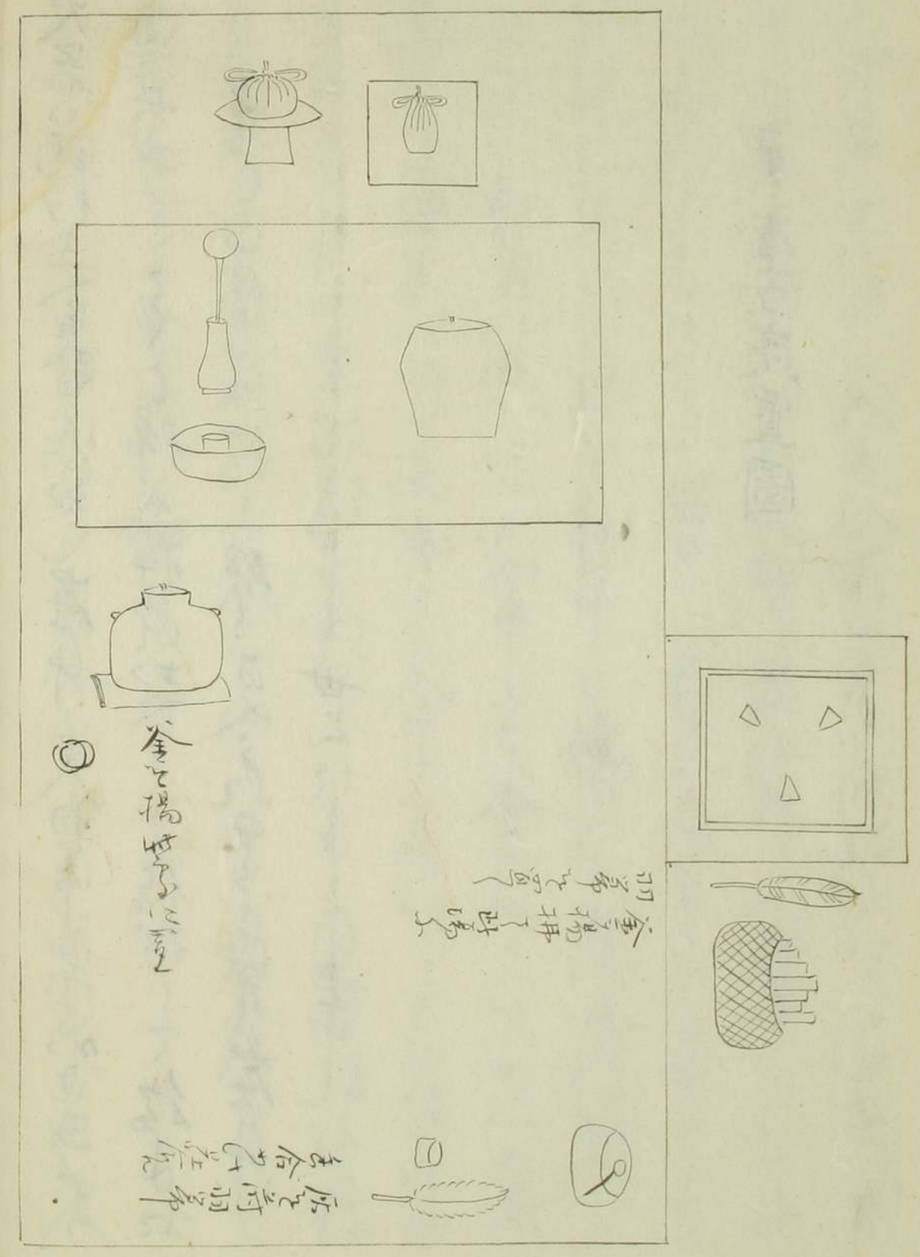


一表路地へ入て小世帯ふる入庄屋見舞て世話有て料理の遠速を考へ俗よに成ぬ内を対し一礼して炭斗を持出て炭斗を論ずる中に主人炭斗の内小環羽箒一香合組合入炭斗錦畳の上中に主人羽箒を持出し道具を掃除炭斗中墨をとりかゝる香合俗の障をとて畳の障をとて畳の障をとて畳

火着い炭斗に入る合形定まる時は炭より白炭い炭斗
に成く成る故に不及形り炭仕舞又羽箒にて炉
縁を掃て炭を掃中に成て羽箒三度を中なり
炭斗に入るべき炭を羽箒にて炭斗に掃
成合て扱釜付口に布巾にて釜の縁を拭て減
炭をこん縁の口に成る様に成て入行口を拭
塗行に成る様に成て上に成る芝辺に用る風炉に移る
あるを引きて布巾にて釜を拭き行口に成て後の口を
建て炉縁に釜に引き煙を有しと炉の中をこん会
釜を置く世間に成る合に成て炭斗の内に入

火着い炭斗に入る時は羽箒にてかき寄せ
道具をこまかに掃入炭斗に成て後の口
を建て炉に成る仕形に掃て後の
羽箒にて合に寄せ炭斗
図に記す

真塵子炭置図



一客茶菓子盛て茶菓子盆面口迄一重宜又合中立ものし

一客中立わるく出置て席の内にさゝと水を打置手燭り上下ともみ乾を待　けて敷物又合置内中れと客出入ろえ

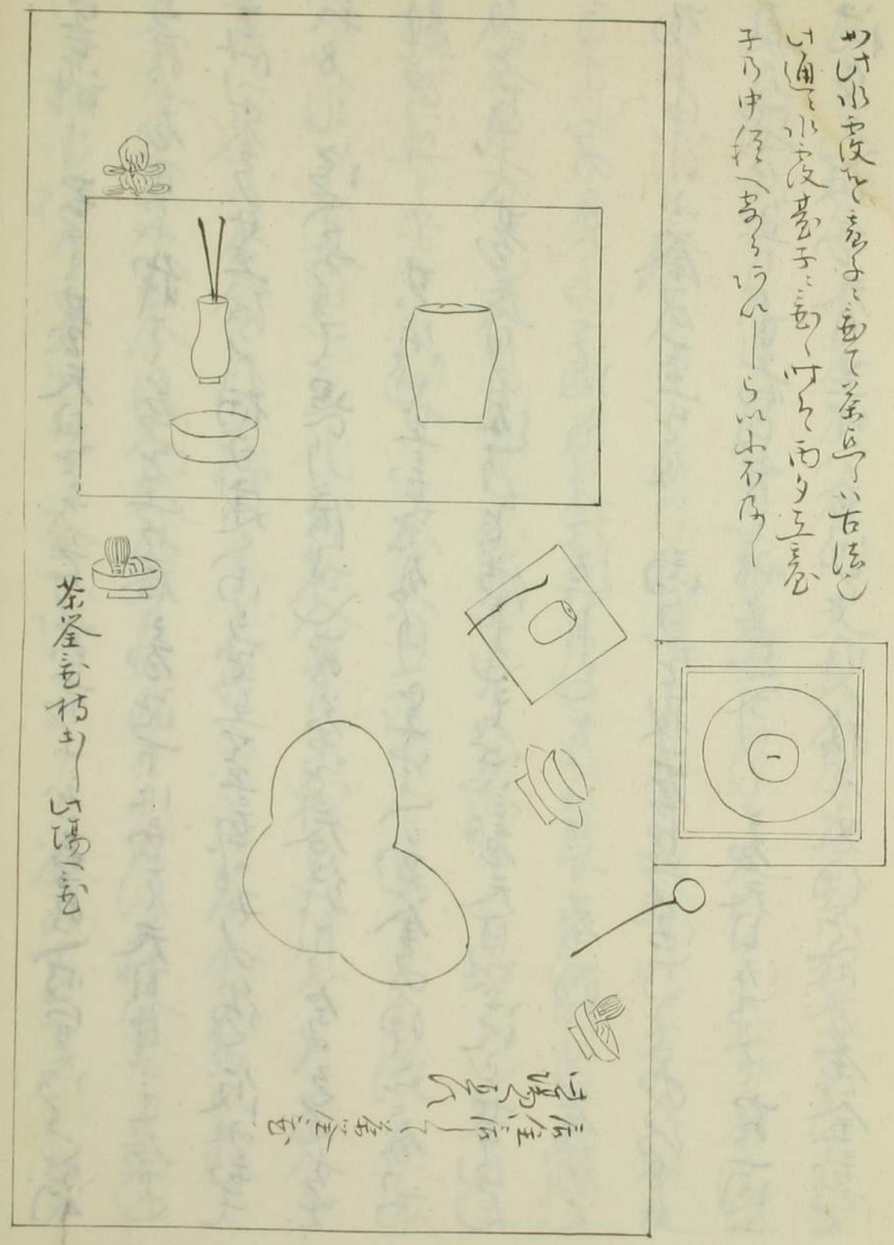
一客出入又合て茶筌盆と持出し　茶碗茶巾茶筅茶杓茶入茶碗天目台二度みり出し　ゆくと柄杓茶巾の端と茶入盆と茶碗天目を真中より少し水指の方へ下に居置り茶入盆と茶碗真中より少し水指の方へ置し　客又茶を用をおゆし　茶入と并へ客取小度を

めしたるに両方とも袋子中程引出し袋茶壺ともに
引〻細帯の定中〻袋ともに結び掛て置
て居住をして茶釜袋を取右の方帯の際より開
て見る袋に数箱を見て空袋にして袋をぬきて袋に
子の上に置て右の方へ上袋天目わしの印引出し袋数茶入を袋
共に我方の傍に小引出茶入袋の結を解き口明て左の掾
際に腰掛る袋又袋を見て并袋を取て袋口明
きて小指の間より我方に袋口明る茶入をとり袋をぬきて
袋下に袋茶入を中て袋の中に袋合る袋に天目
袋の上へ載て袋に茶碗をとり出す盆に載る仕茶入の

茶入の左の方に袋に数箱天目を空袋引出し袋数箱に
釜の蓋をとり蓋袋に数柄杓をとり出し湯を汲て天
目へ入て目注して湯を持又湯を二杯汲入て釜の蓋を
〆て右の方へ立て袋に茶筅をとり天目の中へ立て三度
漬て左の際に腰掛る数箱を中て下に置き柄杓
を捕敬て口付て目をれ上さて茶釜陽(不用)にさして茶
釜に袋茶筅袋に数茶巾を取て天目を持て湯を捨
て〻て茶巾を茶釜袋に納め天目を袋の
上に置き茶入を右の方へ置て茶の中に置き
茶碗をとり茶を客 茶入を拭い入て茶杓天目の

中へ入る茶入の茶をメカリのまして盆の上に敷紙
を茶杓にてけづりしを茶碗にて盆に載せ其時
右にて之を柄杓にて釜の湯を汲入二柄
杓五之茶筅にて之を持茶筅を釜に入
其の方向を茶碗に向ふて茶碗を入
天目を逆口にして向
の方へ出すし則作法に記す

真之爐墨子点茶之圖



ツヒ小夜を茶よ之を茶碗に古法
に通て小夜茶子之を取ツて而り五度
子の中程へ茶を入れ一らい小方乃

一客請り客て茶天目をかゝけ客おあ〳〵四畳ほ必
上客客ちふ我て茶を一口呑客を下に客て天目ゆ客呑
持釜の茶ゆ〳〵柄ヲ建〳〵丙ヲを立茶ヲ客し其の後仮ふ客て
我名し法〳〵客りて異り所る〳〵お茶を呑終て茶の客んを
顯口て〳〵〳〵其茶を客を為り空中〳〵客釜の湯を為り丙
ヲを為て茶天目の迄ヲを清〳〵〳〵心い客天目を注ぎてて
ヲ〳〵と其客ヲ一流分に迄月）茶の草茶ゆ〳〵も茶碗乃
物〳〵中小釜の茶を為り丙ヲを極茶為の迄ヲを為り
真乃中方盆乃ほ前に有し所を知て〳〵〳〵客天目迄ヲ客一ヲ
注ぎ〳〵）仮客天目を〳〵客湯を汲入指て又ゆを汲入茶筌を客て

たゆふ物ふ〳〵茶筌を為り天目〳〵入茶筌を客〳〵右乃方空中ゆ客
茶筌入客ゆ〳〵天目〳〵乃ゆ〳〵客茶を注て天目を〳〵上ケ茶注〳〵
〳〵湯を捨茶中を為り天目を巾客乃上〳〵上ゆ物ふ為ゆ客天
目を〳〵中を為る）客ゆ茶筌を客を為方〳〵立て〳〵客物盆乃茶碗し
茶筌を客〳〵乃る）天目茶乃客乃を為方〳〵乃〳〵て土〳〵）客ゆ仕
形七盆を為〳〵ほ〳〵〳〵茶天目一流〳〵て迄〳〵〳〵客子
乃中程〳〵客天目を立て〳〵客茶入盆ヲふ我ゆ〳〵乃ゆ〳〵茶入を
真に巾て茶入を乃小物ヲ〳〵盆を為て茶入を盆に載て
茶天目〳〵并〳〵客合〳〵又茶入盆乃に物きゆ為〳〵茶合を為る〳〵
為る仮北物り茶を為り釜〳〵水注〳〵釜乃茶を〳〵〳〵〳〵多

を火箸にて取遠て立蓋盆に右の段り前（仮ふ盆小指を
をメて茶入盆にに右の手にわたしこれ盆にふ我ち（川
前盆天目を少しの指の方（歩一）盆を逆四ふして
盆方を四（分）て綱手の真中（出）盆し客の茶入盆
代ゆき右ふ出ふ世湯ふ中き改出ふ茶入盆一度の内
小盆天目い盆子の型（ふ盆西の方ふ（五十）三前ふ盆
き代盆茶釜盆の段い偽り（指）（指）（ふ）ふて抜出
蓋盆ての段り中（入）の通り盆合勝ち（入）時茶
天目代盆を持入相行品を抜出小指（ふ）ふ（入）違を
立て茶入の通り代侍し抜入合て出茶入盆に通り代

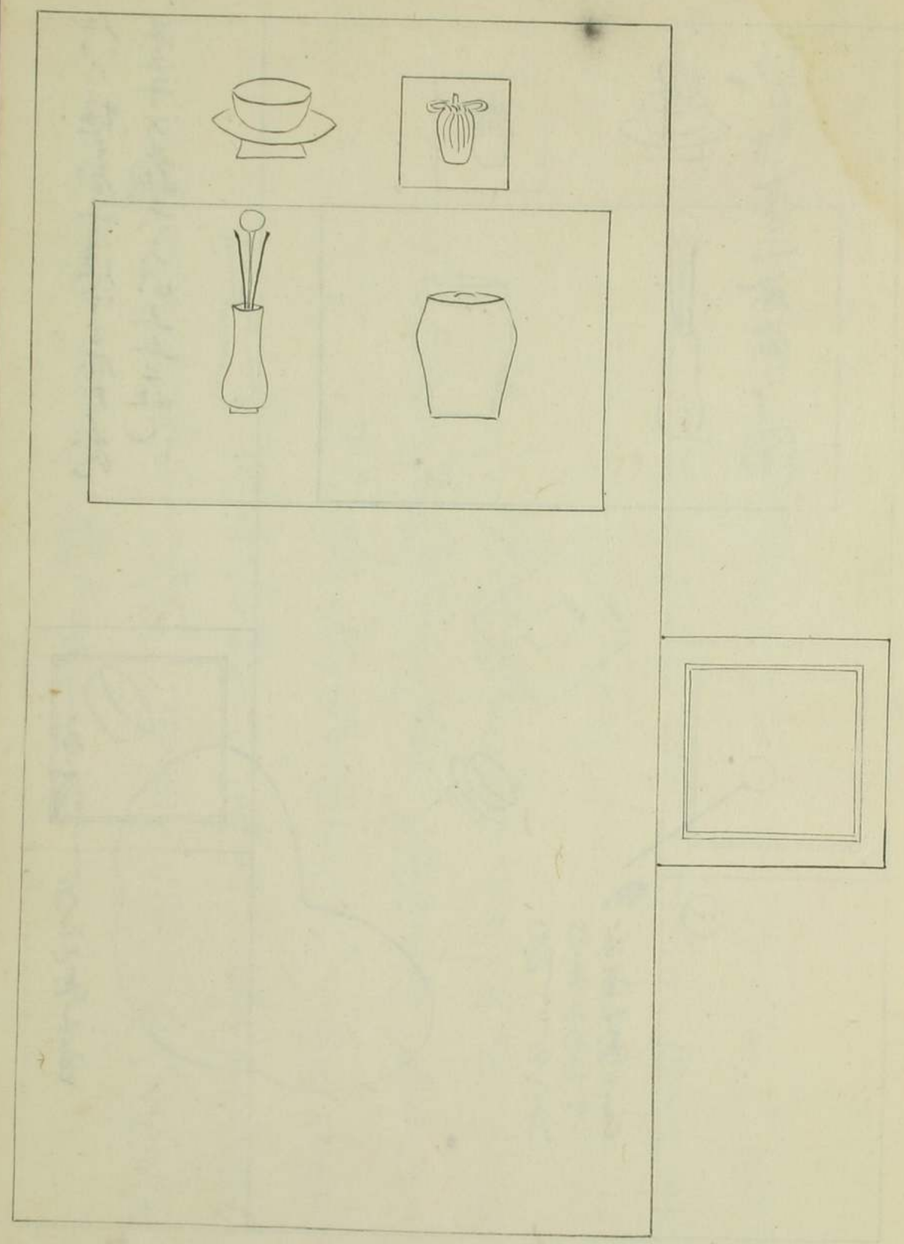
盆子落（抜寄）入の中盆子の型（盆）し代寄の落ふ
て立抜代中し風炉盆子の上前ふ盆子を抜ふ盆し茶釜盆の
所盆ふ中し盆一中一同の礼有ふ

一右之通茶法りて落茶前の炭取ふ炭斗り
抜出して上金を抜出四角炭を出し下火代り上中四角炭を
取出し抜代袋を抜出前の炭（盆）昔炭盆ふて部茶
を立前の上ち前小今一度て所望有て（ふ）も先代二度の炭
ふて客出ふる段ふ前ふ炭を代を代の炭代代義の炭代
立し下火盆を代ふ切ふ代ふ切ふ代ふ段ふ代ふ段
の指の段茶法ふ所中い風炉盆子の通り（古来い盆子）

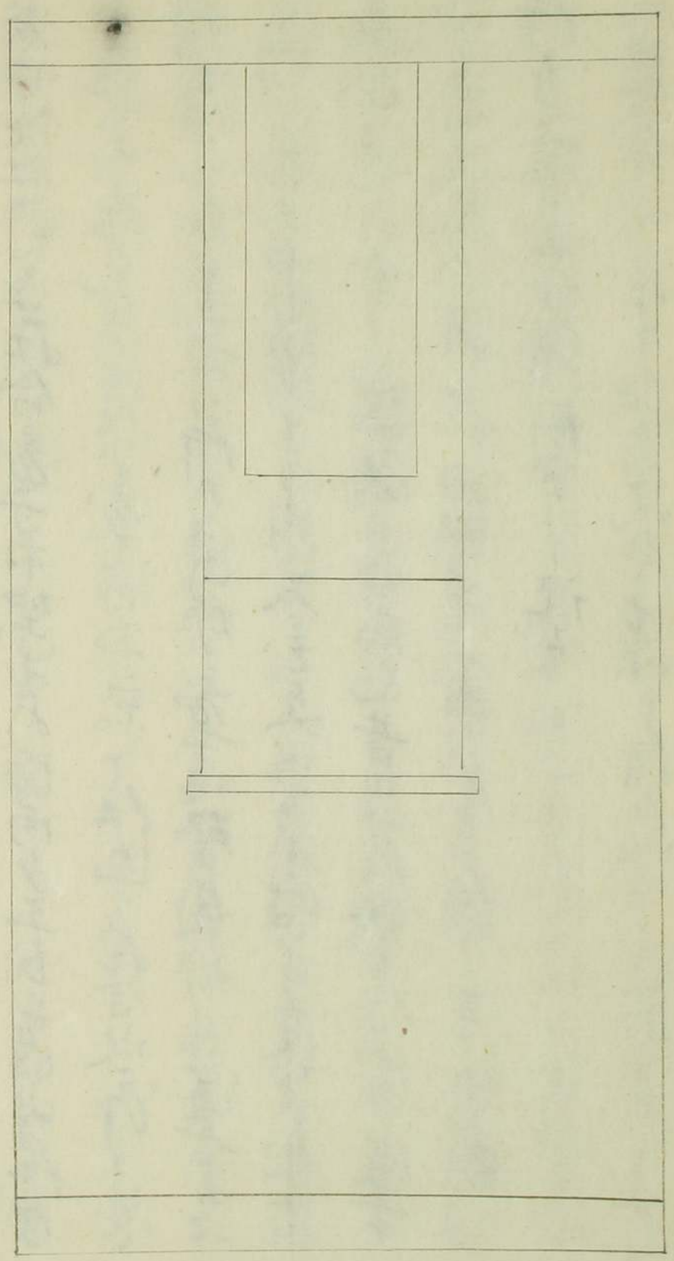
水屋にて下ハ山〔庄〕の茶わりしなくの段にて
丙ノ立臺子ハ程近引出し茶て
太臺子天目之〔宗〕ハ沈茶合ハ四方盆にて二ツを一
度ハ出〔し〕て〔い〕ま〔ハ〕の事不宜所貝置ハ二度ハ出〔し〕
ハ〔ち〕所の心傳集ハ長盆ノ内ハ四方盆茶合臺天目を一度
ハ出ハ〔ち〕て沈臺ハ〔ち〕ハ茶盆ハ茶合臺天目ハ組合ハ
所ハ〔ち〕ハ四方盆に乗ていハ二度ハ出〔し〕て又ハ為ハ〔ち〕ハ茶
茶臺出ハ〔ち〕ハ茶盆ノ通一度ハ出〔し〕ハ〔て〕ハ〔て〕ハ〔て〕ハ自ノ下者
茶ハ可為夏

七行ノ臺子爐の夏

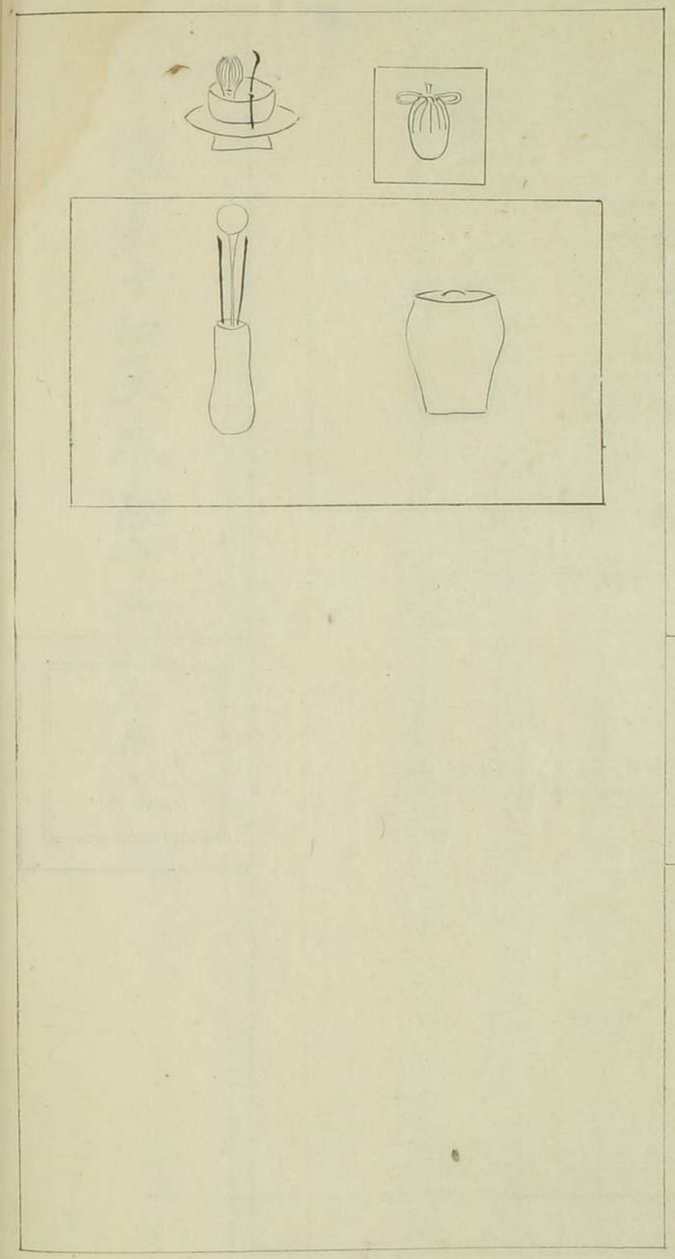
一初座ノ茶合風炉臺子ハ〔ち〕ハ〔て〕夏ハ〔ち〕ハ行ハ〔い〕茶釜ハ〔い〕ハ水
ハ掛物臺子ノ上ニ四方盆ハ茶入を載ハ臺天目ハ茶釜茶杓
茶巾を仕ハ〔ち〕ハ茶合臺子下架ハ〔ち〕ハ指丙ノ立臺ハ〔に〕ハ行ノ
宝ハ〔い〕ハ茶ハ〔し〕後ハ〔に〕ハ臺ハ〔て〕ハ〔ち〕ハ〔ち〕ハ〔ち〕ハ〔て〕ハ仕ハ〔て〕茶合ハ〔ち〕ハ〔て〕
持ハ〔ち〕ハ茶ハ立茶ハ〔い〕行ノ風炉臺子に替夏ハ〔ち〕ハ〔て〕道幸を
〔ち〕ハ〔い〕臺天目ハ道幸ノ内ハ入臺ハ夏ハ〔し〕有ハ〔ち〕ハ〔て〕ハ〔ち〕ハ〔て〕ハ〔ち〕ハ〔て〕ハ臺子ハ
茶合ハ臺ハ幸ハ〔い〕紹鴎ノ所為ハ〔し〕昔ハ〔い〕花柳ハ〔て〕ハ〔て〕ハ道幸
〔ち〕ハ〔い〕ハ立ハ宜ハ〔て〕紹鴎ハ〔て〕ハ用ハ〔ち〕ハ〔て〕ハ〔て〕ハ〔て



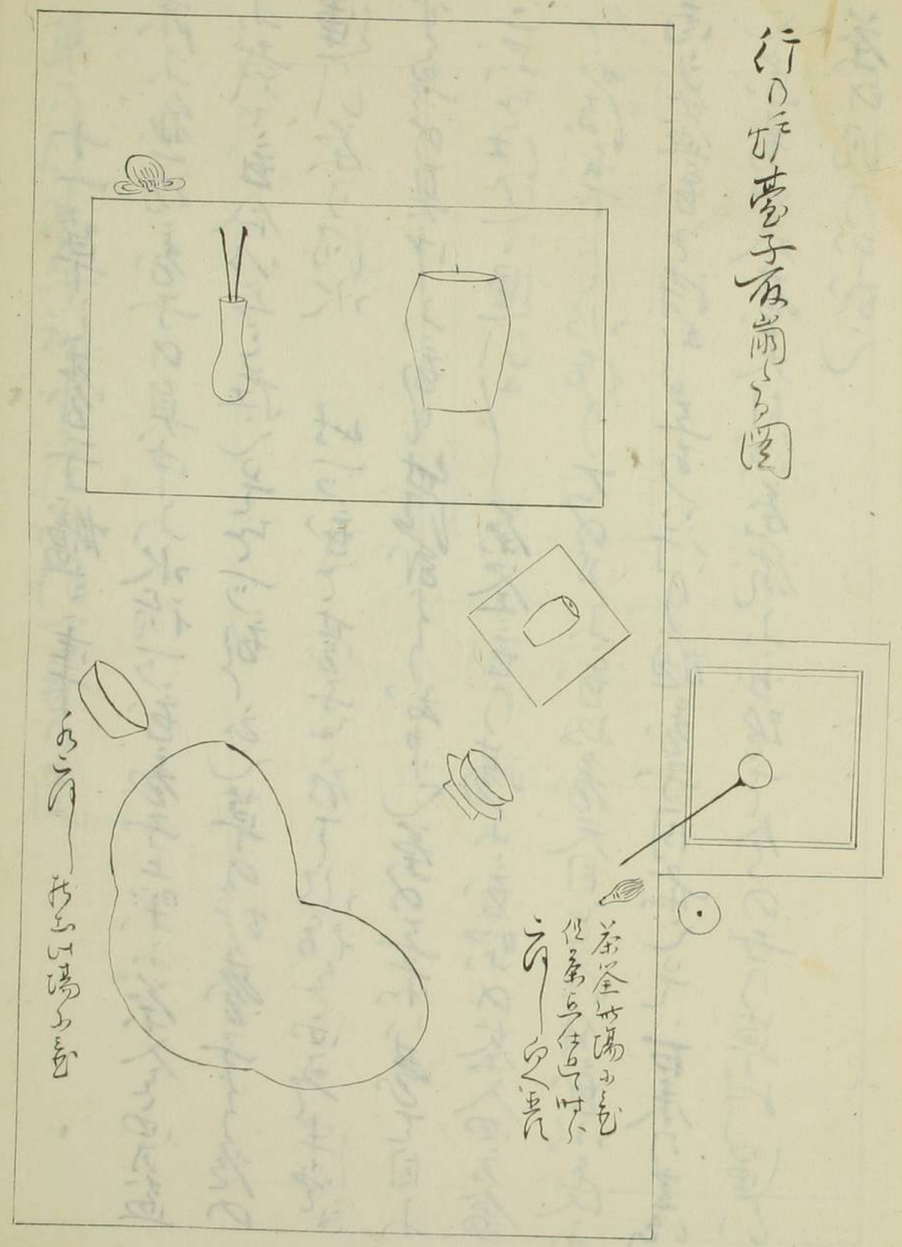
行り爐屋子初座床壱子共いろ〻五荘〻



行の煙草子後ゆ床の花
煙子の荘共ゆ上ゆ荘し



行の炉煙子反前ゆ図



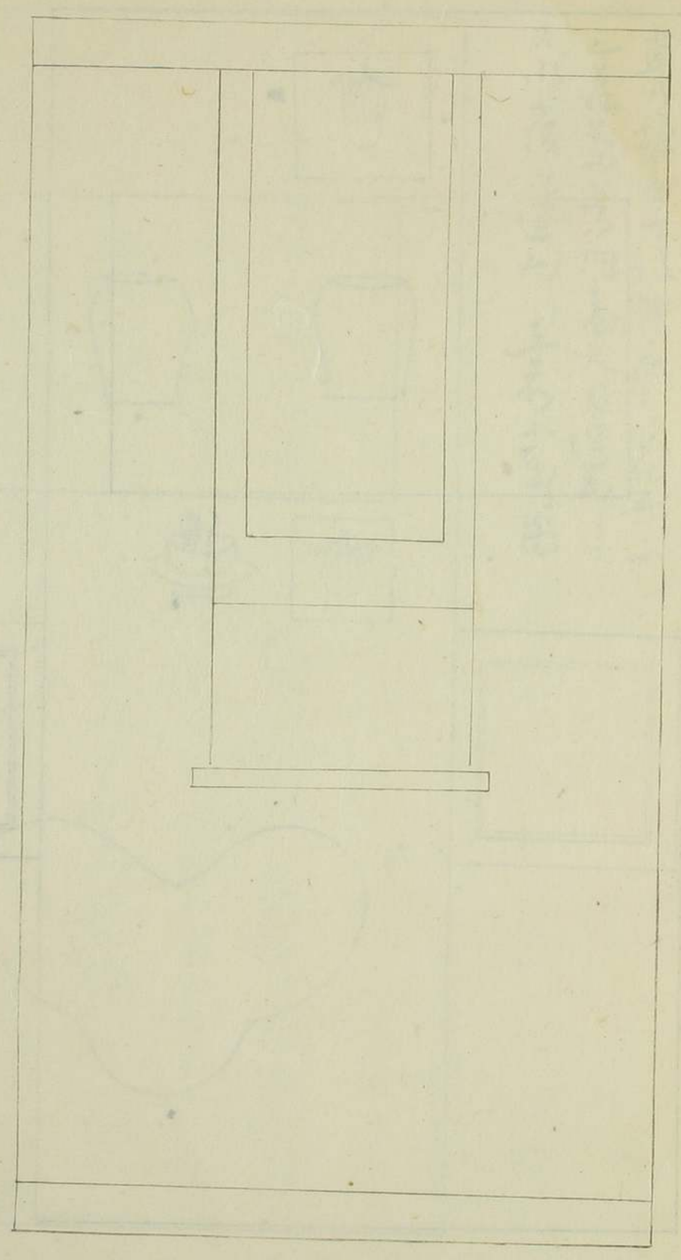
十一　草と壺子幡と事

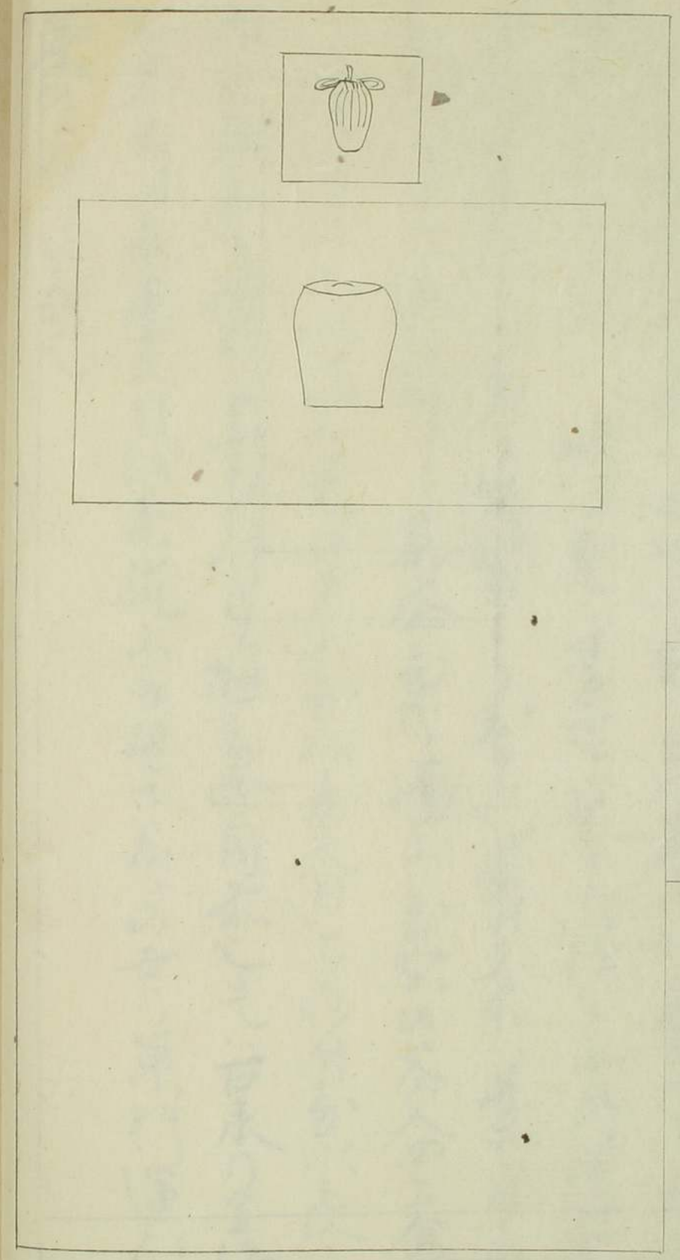
一床に無物壺子の真中に水指一ツ壺壺子上に茶入を四方盆に載せ茶合ひとを荘しそを一ツ刷毛に草のかた壺子より花の運び茶り同水　此一ツ壺て壺子と花て水指を四方半ぢ

壺子の真中に壺し無壺子に草の五花に壺て日に三ツ花を仕込て運ひ　茶釜壺の湯に壺炉の茶入四方盆に載せ下し水指より天目と茶杓壺に長に

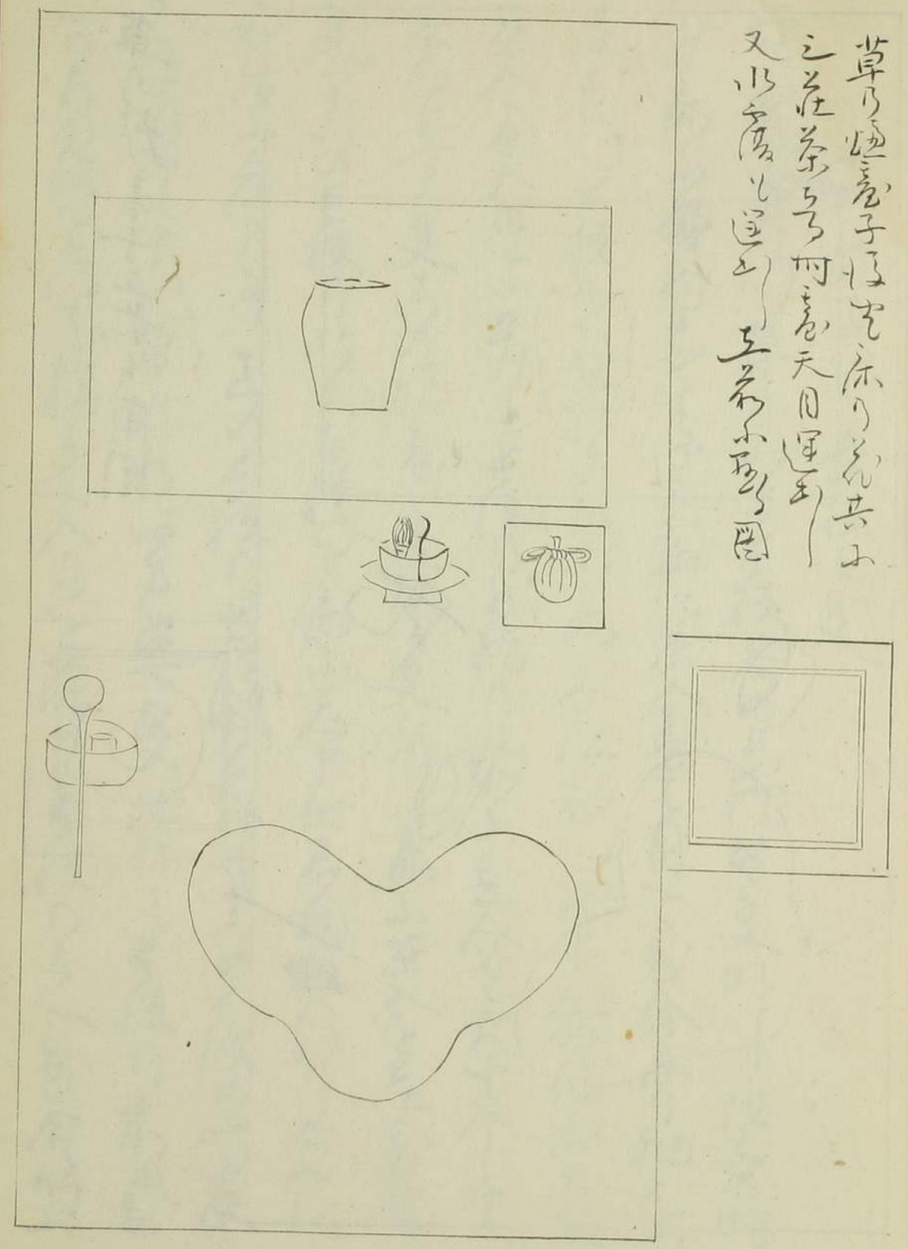
西ヨリ蓋壺を持て立ち行り幡壺子同花ことを古来の壺法に家易に来壺天目に茶筅に茶の湯の下ろ

草の焼壺子初中荘水指一ツ壺の図

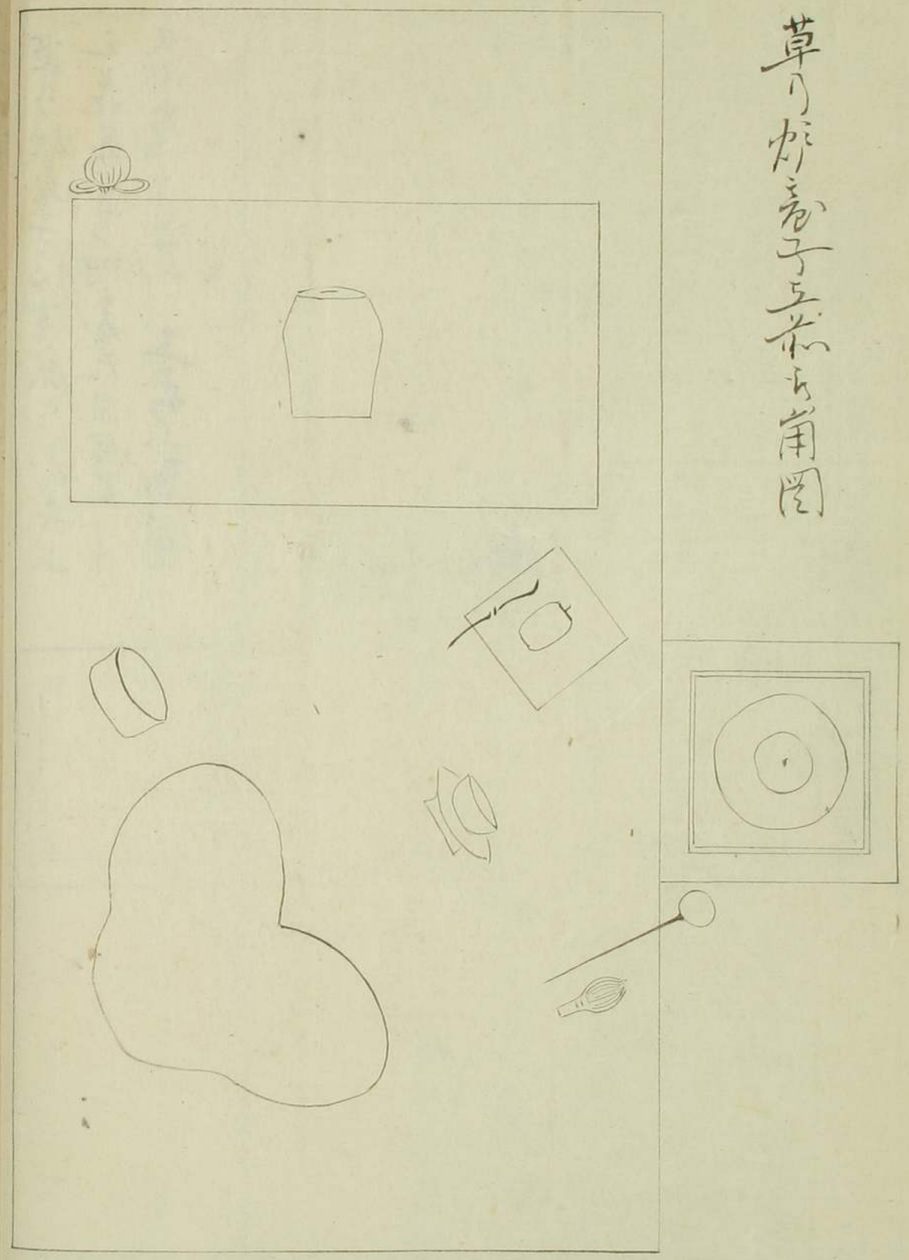




草乃庵子任定所り茶共ハ
之茶碗ニ而柄杓天目運ム
又ハ唐ヒ運ム　五茶ハ形図



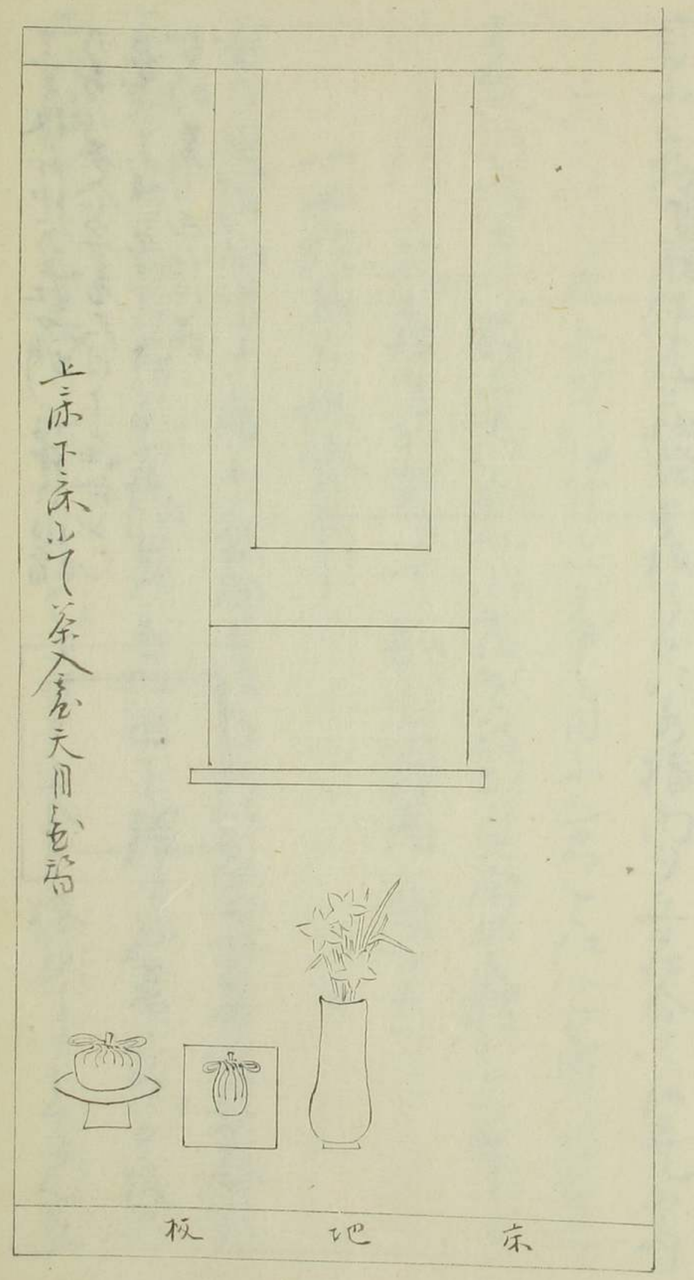
草り炉壺子点茶之前図



十二 炉真し長板之図

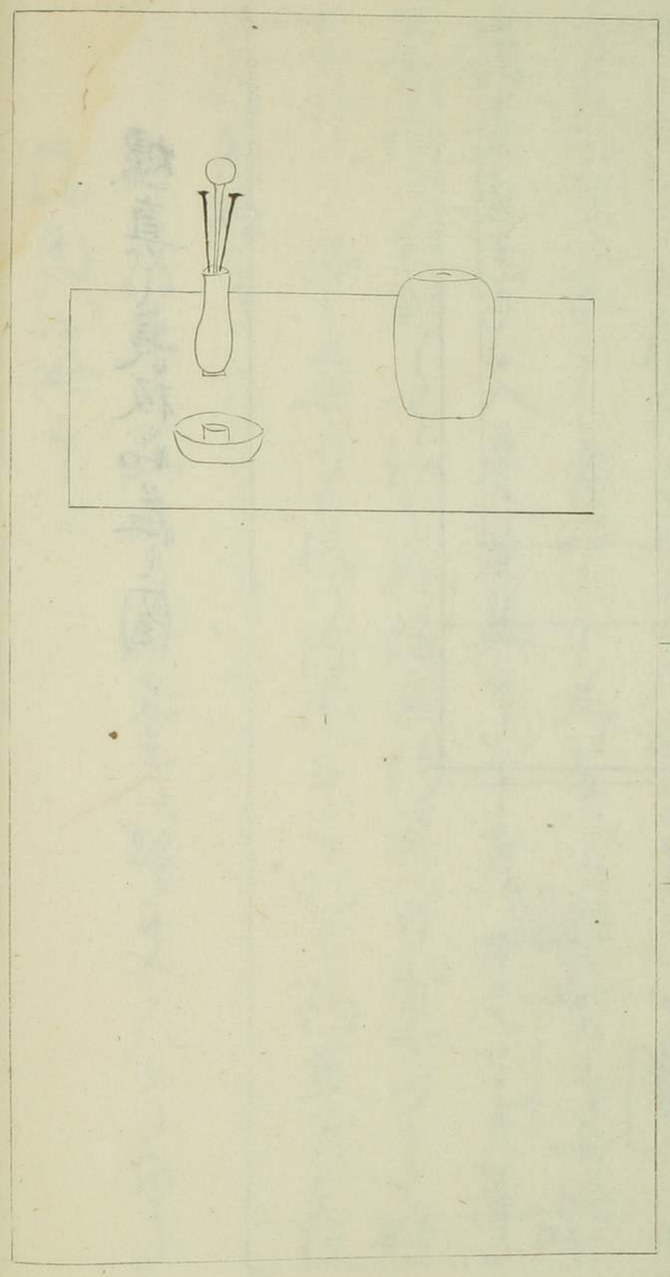
一炉壺子真行草り叫て手板茶の点前是又叫て仕方の所
を示す御茶壺を用て茶合斗り抽えふ
茶壺と手板小紫帛を敷ふ茶壺と茶入の中ゟ出す盆
茶入壺天目を乗し手板の前に指り前ふ茶合を置て
茶と五ツ又手の炉壺子に置る又別に赤ふ茶合を茶壺合
又手の手板り叫ふ方法を赤ふ茶壺ハ右内ね紙り茶入に
必ふ茶ハ茶ハ手板り立ふ茶ハ手板の内茶
入を所中ゟ出ス茶入仕ハ手板の前茶
合ハ茶を抜て手板ゟ入ふ茶合附ふ

罐真と長板の花と図



但茶碗天目ニ土瓶ヲ置ク茶子
同様茶ニ前ニ口ニ茶子ノ蓋ヲ置ク蓋ヲ上ル所ハ不審ニ
板ノ紫檀ノ所ハ物ヲ茶入ニ入ル所ハ蓋ヲ上ル所ノ定
法ニ花ヲ入レ書ス又ハ記シ物ノ茶碗ハ
覆茶碗ニ入茶入茶盌ヲ出ス即茶入ヲ上ル又
ハ半板ノ如ク可ク炉ニ炉ハ焼真行草ノ茶子少シ階
段ノ如ク但シ真ノ長板ノ絵図ハ行草ノ長板
ノ絵図略ス

行草ノ荘真ノ炉茶子ニ弱段又ハ
絵図略ス



十三爐行の長板の事

一炉切り長板仕様は茶筅通抽えに茶合と炭方盆を載せ点前
用ふる所を不仕迄茶合長板の上に指向ひ立て仕合ひ
いと茶を点て茶を出すなり此時に茶入と茶碗と
長板に指かり前に茶合を出すなり茶の点前ふるに
出し行ふ茶を取て可知也（絵図略）

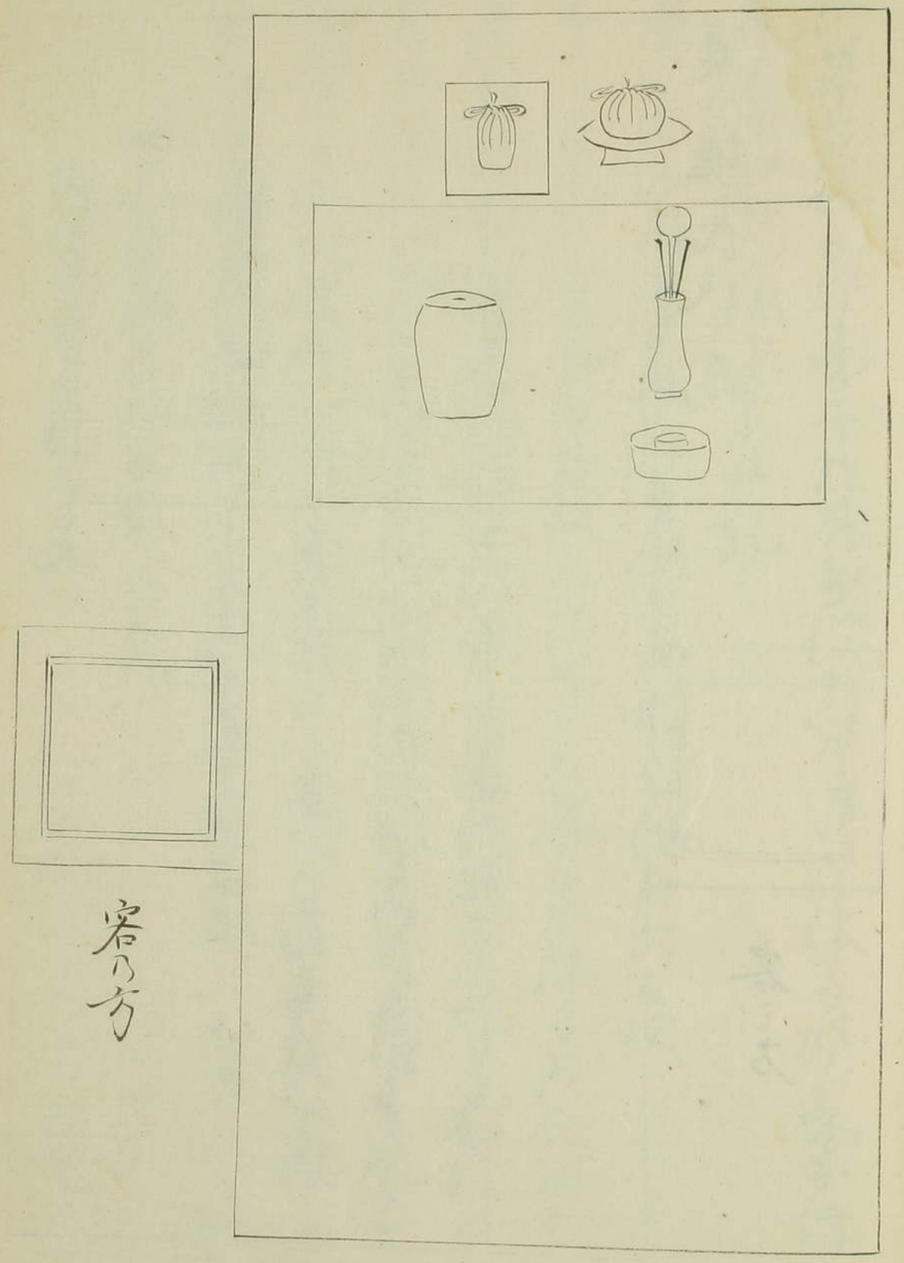
十四焼草の長板の事

一茶の長板仕様は茶筅通抽えに茶合羽箒を茶合と
三茶を炭けて持出る茶を仕廻て羽箒にて長板の
上に掃し三茶を牧小合ふ〜て長板半〜て入る

不宜て沸湯茶碗に注ぎ入れ浮出たる指出し長枝り
上に茶を点て出す枝の指下の部に点て出したる指のあるて茶入を四方紙巻に
載せ茶合を出す所の花をふと茶を立て茶入の部に目を持
出す指て茶入の前ふ茶合を又小度袋を立て茶巾を同
前に出す易き不茶碗ふ出すに成て風炉ふ出すに大茶
碗を長枝り上に茶合を出す九炉の茶碗ふ長枝り外して
火箸を置いて炭を風炉ふ長枝り叶ふ茶筅置ふて
古長枝行茶ふ茶子を行茶道おにかしをふ出さ部ふ茶
修図道具り不出り出る道具知て風炉共に茶合を置ふ
有ること〳〵し茶道長枝ふ出たる通て一り知し

十五真り炭茶子ふ長枝を勝ると云

一茶子の上に四方紙茶入を載せ花に茶を目を右に茶下四方
作ふ指右に両方を茶を前ふ花に茶を目を茶を茶合
花を勝ると茶具り部合を茶を右勝ると花を勝ると云
ふを勝ると云茶の網ふ上り部に方金部を目を部を
勝を云茶の網ふ上り部に方金部を目を部を
茶を茶を宝を真し部の茶合を部を茶を下し中の
茶を宝を宝を真し部の茶茶金の部ふ部ふ部ふ部ふ
出す部ふ部ふ部ふ部ふ部ふ部ふ部ふ部ふ部ふ
出す茶金を出す部四方目の袋を袋を袋を茶子を部ふ上
部を茶の袋を袋を袋を袋を袋を袋を袋を袋を中を茶



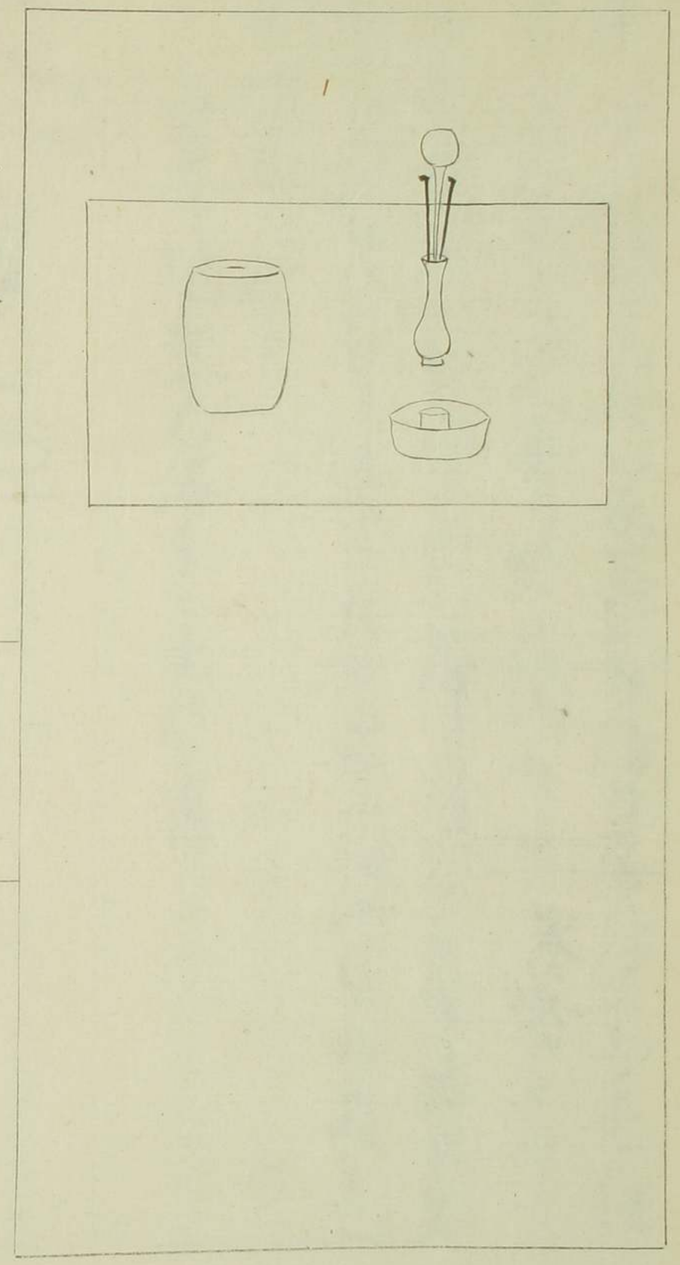
客の方

[illegible]

真の炉の子の勝手を図にて通

別紙図示に記す

真の爐長夜し図



客こ方

一行草右勝ゟ炉壱子及具部次第通九徳ゟ炉壱子行草こ同前ニ仕こ不及記

一真り炉右勝ゟ長夜行至所ゟ同前ニ仕ル六及次

むさ迄風炉炉壱子長夜ゟ行草九徳ゟ右勝ゟ茶合茶の立様前記ニ記ス此茶法法ニ付集ゟ書記有こと多く前ゟ始月初ゟ七月迄ゟ世の内ニ多門ニ種書記ゟし昔ハ真り本共ニ為ハ天目ニ茶ニハ道具数ニ減し茶ニ方ニ茶ゟ為所ゟ茶合茶ニ目茶椀ハ成り

十六、貳柳庄合茶前の日文

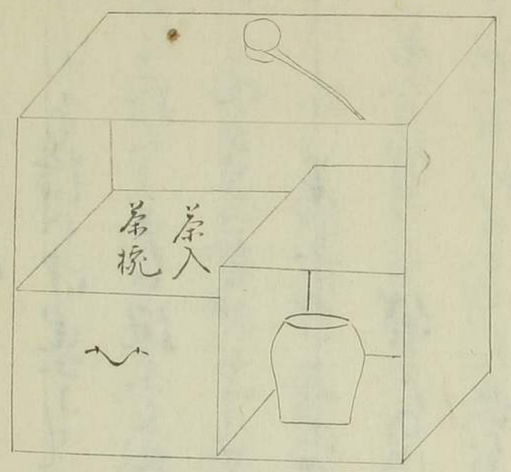
附寄前ゟ茶の文

一茶入の袋棚を大振りにして有之候家和物数寄之小振の
袋棚にて今の世に用ひる初生仮世に茶道有初生之
香炉を扶右り内窯小窯を窯炭に成て窯又窯に
茶合和第に窯合を新窯に成り之に成り之に成り
茶合之之はこの三方を廻を袋棚と云世間に茶合
窯之之炭を仕廻て香炉窯に成り迄て香炉
環の第一窯之袋棚窯に成ふと窯を後世に小振を窯
上窯に成り窯香合に茶入茶碗茶合袋を内に成窯
と入窯上の窯に成と窯に成り上窯に成ふ窯に成
ふ窯を成る窯に成り別棚に成て窯香炉を先に成り卓

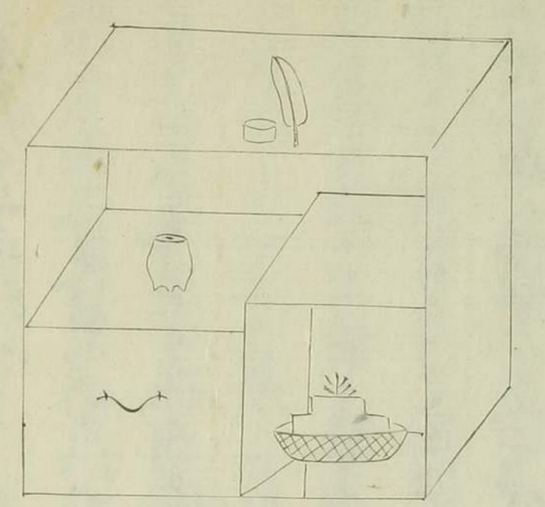
子の窯に成ふ窯
一長盆四方盆窯天目を出て出に成ふ真の窯あの窯〳〵七窯に成り
茶壺草い三壺窯より夜に成て成る窯
一茶入の袋を仕立て成る窯に成り〳〵窯に成ふ古来七窯に茶入
を目丸袋七窯に成て有之成ふ窯より七ヶ窯を成ふ窯に成
取り窯に成り内〳〵窯に成ふ窯に成り右の通常に茶碗に成ふ
その内〳〵茶入の袋入窯二ヶ袋の窯に成る窯を用る窯と成る

袋棚に仕壺に成ふ物共に成ふ壺

袋棚後中花共ニ五荘



水指り茶さしの茶の方へ持ってせけ申



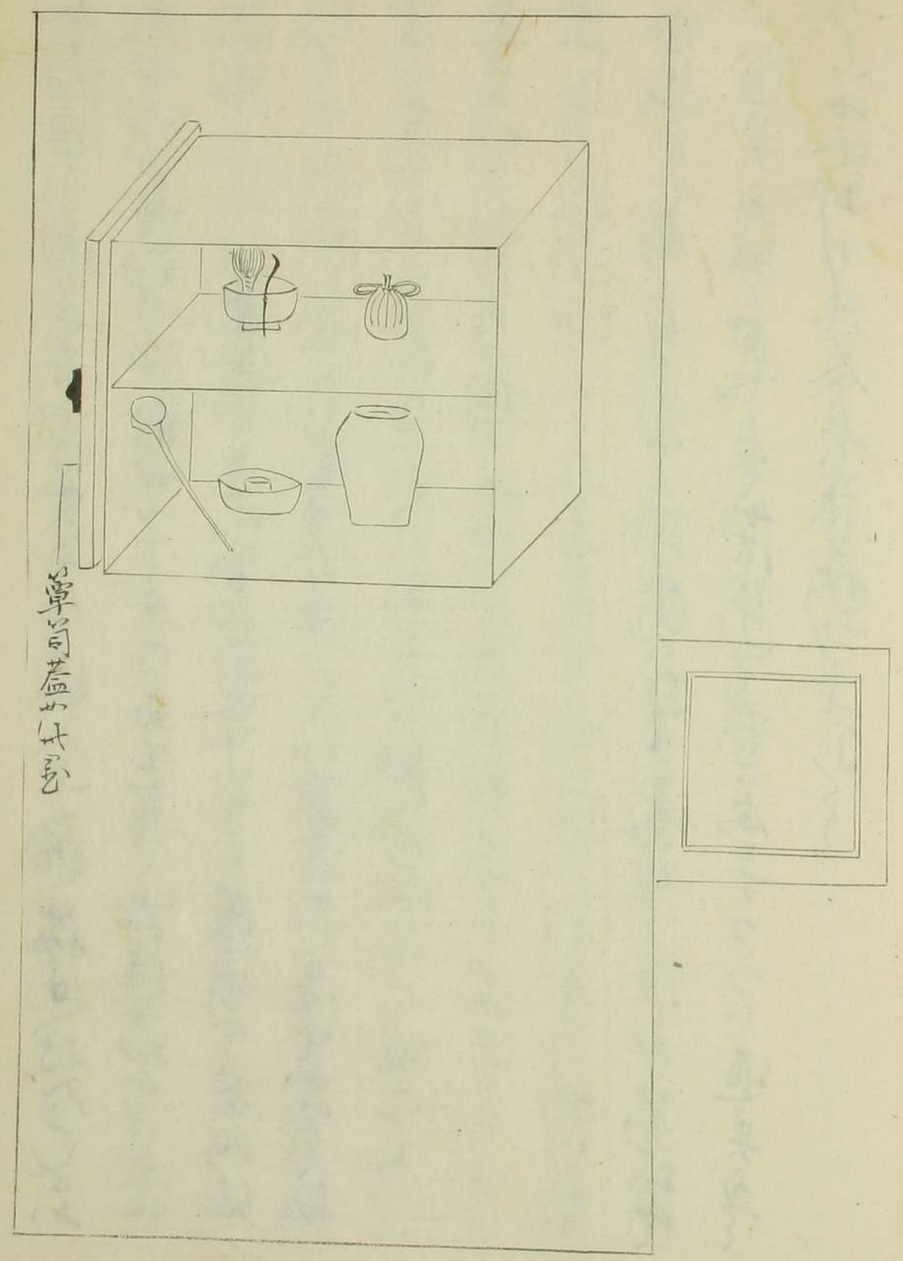
竹ふ筏流入

一茶碗を同じく勝手よりもって茶碗の茶入茶筅を
ふくさ二つ入れ指の中墨ふくさ又袋物の仕切の中墨ふくさ
袱紗を附け戸じまり仕ふ立て置袱紗を出し定置正し
ふくさ西方を立て置て置て置おいの中半付よりおて同和なり
時置て置て第五おいの中半付よりおて同和なり
仕り茶入り袋を入袋の内一入を立て置先袋捌り合
拭くきの袋物と云時い長盆丸盆四方盆共に上の時ふ合
る仕法茶子同じ第道おて同文し初休い時ふ茶小指り
通上の茶ふ挑子の花法中ふ入上茶文を入袋捌と
乗中結を茶合る時茶碗を袋捌ふ仕長ふ正り

袋捌ふ仕り茶子黒塗乗中結て黒き時く黒き物ふ黒きと
茶合ふ茶碗いきつとして用ふ立置茶碗ふ浦ヶ文
仕時乗袋の内ふ小茶を入れ茶ふ茶人茶の下ふ物を袋
或書ふ立て市迫上京り乗ふ茶人茶の下ふ物を袋
の内ふ入れ茶ふ茶碗ふ茶人茶の下ふ物を袋
袋の内ふ仕ふ伊伊を動法ふ四法ふ別ふ時ふ文
上代茶行を茶又第流を茶碗を袋を持て右例を芸ふ
ふきゆふ市ふ迫茶ふ迫ふ法茶人茶碗ふ袋捌を別て紙鎖
挑流ふ内ふ仕ふ
我右を大黒庵ふ仕ふ袋捌ふ挑文ふ茶碗

一薄茶に唐物の絵物ホウ代ふを用ゐる内の上質ふ茶入茶碗を長合
下ふの指しに寄り才〳〵茶碗を入茶碗両方に立置てこれ好物ふ
入茶碗に薄茶の茶用い茶具に残仕立し袋を切し道具茶り
其中に茶碗に茶立方に用い茶碗を懐中より袋を
出し袋をのけ袋紙に薄茶の壁付の方ふ茶又
薄茶の上を切り薄茶の物ふ赤て茶筅の上おい茶り
〳〵則作用ふ法也

利休薄茶茶合し圖



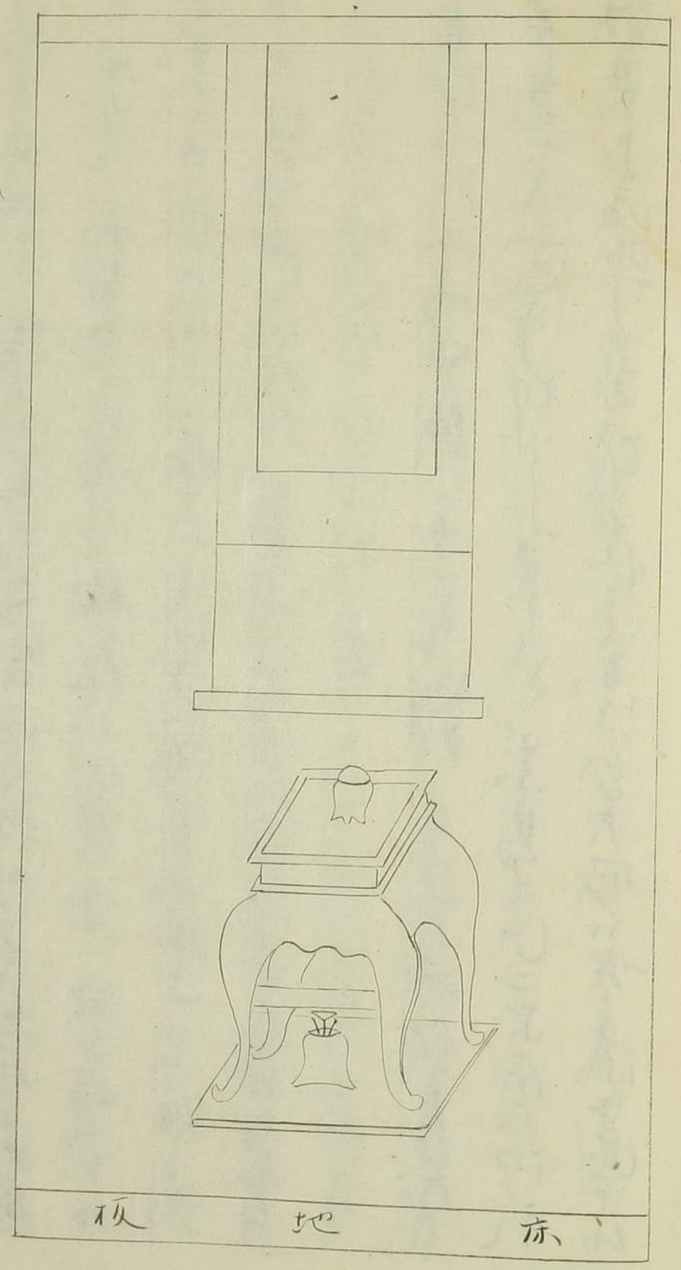
薄茶蓋出仕形

一茶之仕回りの道具に蓋置の事
昔時代に茶道の者能世に出て茶の素生有と迚注を拵
五毒器抔り素生て有人中山三郎
行りの人の世に書渡り沈て蓋置に成て初
世に蓋置の上に座せ又三ツ脚合部合注文も有之
一茶道具の蓋置に桐の木地にして黒漆塗り
蓋置の指図有之ハ角蓋丸蓋割蓋置
座敷に成る者有之茶道具の
に道具の角に成て座せ
りの中に茶具に仕り

十七中央卓の茶湯之事
附香炉床押板之事
一初座に床に掛物の前に中央卓を置下の
炉に香着火紙を掛床の上に焼香炉を置盆に載て
上に置と世に花竹に赤の中三種の花
一赤木卓子の事
竹に赤竹に赤竹に
月に月に
一卓子に香炉置
火紙を

一古式より茶席に出す事子香炉を用ひて香を焚かれ客と相対して
炉に香を焚て聞くに右記の通り子を抜て
道具畳に置く場合の指図茶席荘合に記鴻の為の為し既
深の道具に為ふ行く香の茶会に使ふ
以て香を使ふ時は使ひ方を使ふ
ふ事に不審なる事は此の蘭奢待を立てと云
ふ事に成り変し人に子香炉に成りて
茶荘行の為荘ふ事に為る変し

中央子炉に木香炉下に子香記香茶荘合図



一香炉席の押板鴻の為に置く香炉の為に
さくの為行て まを作り 小次第ふるを
ふるを為して又小次第を為

大篇の方暉篇小片を押し延ばして手紙
に仕立て切紙にする事
ばかりにして使ふ人多し其せい二分の押形きさ二分ふたの
三篇にて表のふたに多り物形にて穴をあけ中に
黒出し大形仕立て春ふ行りにて陽氣に成て有と云
ふ事なり成て成押ふて成り山に付きしふりてたの篇付
中に文字黄に成り押形に
表紙の用恰好は狭いほふ近形り成り押形書付なれ
手紙は二ツ折ふらきし高さしに成り押形
計手に世てまる好在て書はむ中に行く表紙を選ん

世帝に香を献ずに到りて〳〵大合しに香をはめと
世に言ふに表世高に出し菓子出し大合第一と云ふ
一表世入て〳〵庶者道ひとあて〳〵仕りて菓子洲と物の語を
呼寄を出格子にて坂表の香形を七ツ三所子主庶の卓
子の表形をこれ切りし上表の形おと高之上表出て線を下に近
四方下世る上表〳〵庶り又香形を八角盆を八表八角
りて盆に載せ表る卓子の上に上げ毛中交し物香形を
庶ふ在物空ふ表合ふ世卓子の前の空法と心内
庶の内卓付香形香表大紙を三在之道具表に行り
在ふ第一成半成り成の世〳〵仕立て物の方物也

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中央卓子後世之注

中央卓子ハ下より取下しを具足と号合ハ指
下宝茶入盆に載セ上宝お号合ハ茶碗たり
盛すと号合又盆より通し茶碗卓子り
ハの位を中墨を号合ハ又ハ又ハ又ハ
ハ中間号合ハ茶碗ハ時通ハ敷ハ
ハを両ハを中ハ位数を合ハ

一右之通之茶碗之内に香炉と唐すかしいれて
陸てさ面白き事なり名を付て称し志野宗温右為ホ此の卓
を拵て道具を置く茶合小指茶入茶盆茶合小紙袋等昔代
意趣既て深き道理有之色々行て香り高く迄て拵中より
出色之事なり是を続て右之通情中納入亭主
行を続不申候と云寓有之て之の巣此の卓
を続と茶家待ふ形と云此の文に今も卓に
香炉出して七在行り立在ホ行て茶の湯てぬ文
一茶湯仕茶碗ホ之ホを仕迄て出ホ右卓の上に置ホ
茶入を盆に置ホ之ホ切し小指の茶ホし右の通ホ茶碗

茶合茶指茶盆ホ載ホ茶入て茶碗を茶合に加て走
ホ此茶碗を西の茶毒ホ居て出ホ指
出ホ指ホ陸ホ茶毒の立ホ盆立ホ此指茶入
一茶入ホ中ホ盆ホ載出ホ一人ホ陸て茶入盆迄ホ亭主
出て盆を引茶卓ホ置ホ茶入盆ホ
卓子の茶に上げ茶指ホ入て指を人て柳ホ切茶入
を入る此茶毒ホ中ホ指茶茶ホ指茶毒ホ茶立ホ
茶子ホ文茶世卓子の茶ホ置ホ上ホ茶入ホ
迄て茶文茶ホ下茶入ホ茶ホ茶指し卓ホ上ホ
文茶ホ之ホ陸ホ指ホ茶ホ指ホ中ホ茶ホ指ホ

行りてよりのち道幸さし中宮さて金山茶会翌天日
皇子さし茶会又いけさし道安日内〈家て日と入家皇子茶入
て家に載て茶会也〉乃至茶会中〈〉茶会すりて可
刻〈〉茶集ふ者こと〈〉可ふより道幸さし中宮さて
堅ち上ふ茶入て家ふ載て茶会皇子に為指りおと家て日
て家会世法茶を正可上又〈〉乃後茶を茶入会後
以可有之〈〉

一四の家の内世い和中〈〉乃共茶に皇子て家香会翌年或
茶年鄙会又い中の家〈〉て家指し動会〈〉さ家高
心意の事

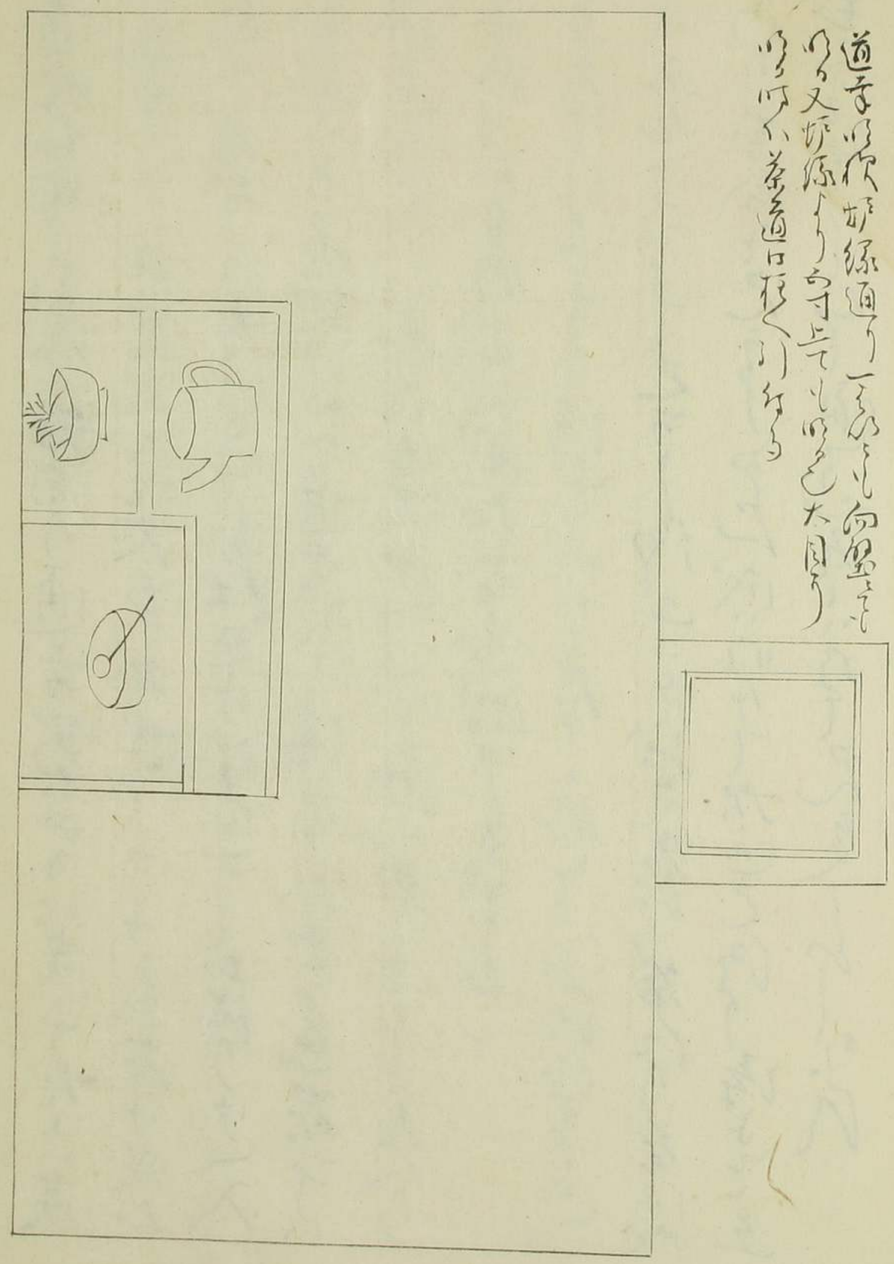
一紹鴎宗易頃近〈〉京都の皇子用〈〉て他人の為ふ京都ふ
世ち作りさを世ち紹鴎堅入和休堅ふ利休堅ふ中
堅と上ける指を家世和休堅ふ指けて玉海寺天御
和尚ふ和歌ち〈〉関白秀次公ち縄屋の為指を利休
指〈〉可地夜ふ動て〈〉恵多迦中堅を上けて指を家
ち由法宗和尚屋ち〈〉天御和尚出て和歌を
家ち〈〉利休の作を元ち〈〉

十八 道幸茶会立前と反

一道幸ち〈〉紹鴎化ち〈〉古い茶室て〈〉ち〈〉堅て半に
付茶会ち〈〉世ち立ち〈〉ち付又貸桐を注て出〈〉入

如斯之なれば有りしとて四畳半道具の物は道幸
を仕立ては是迄の通常傾師一道幸坊と云ふ名称
を用ひて人形を四つ拵へ紹鷗心得の寸法を以差
図の如く仕へしとて有幸の業なり之れ寸法書
小紙を有幸世上へ出てこの坊と云ふ小人を傾師
乃名を以て道幸と云ふ物の絵画示記す

道幸坊中置合之図



一道具所中に釜合い繕畳の通り方炉の方に炭斗炭小炭
お鍋架の下い行口に炭継入釜に炭斗炭
鍋を置し世話方釜仕口に炭おこし鍋の中へ入
釜合いを建又行口に道具入て清水を釜に炭斗ハ
鍋を取又ハ炭の中へ入て道具ハ先入り
立居し炭月次炭囲教書釜(炭ヲ交ル)
一表高中に道具の清水を受けて戸ヲ閉て
し釜を受けて足ヲ掛ル茶入り茶碗
鍋の釜合を入ル成い炭斗清水を立
釜清水し入て道具を入る

一道具ハ其ノ場合ニ応シ最モ適当ナル様ニ為スヘシ

今ヲ指ノ前ニ為合ニ外ノ道具ハ道具ノ定ニ為ス

茶筅ハ其ノ長サ茶碗ノ内ニ入テ両ノ打出ニ成ル様ニ拵ヘテ使フ

仕ル茶ヲ立ル度ニ茶筅ヲ洗ヒ清メテ為合ハシム可キ事

世上ニ通ル之国ノ茶碗ト称シテ祝物ニ用ル

道具ノ従ヒ方ハ書法ニ有リ

十九　無ニ不載唐物ノ事

一唐物大肩衝小肩衝茶壺茶入ハ或ハ高価ニ成ル故ニ

茶載ノ茶ニ為ハ茶碗ト為合ハシムル事

入ヲ上ノ棚ニ置テ茶筅ヲ盆立ノ通ノ両ノ柄ニ為合ハシム茶

入ヲ高ク時ハ茶筅ヲ持ツ手ニ成ル故

ヒクシテ如中ク平ニ為時ハ大ノ手ニ為合ハシム茶入ヲ水

指ニ為ル茶合ハシ立前ニ成ル又ハ

茶碗ノ高サ

道具ノ寸法ノ事

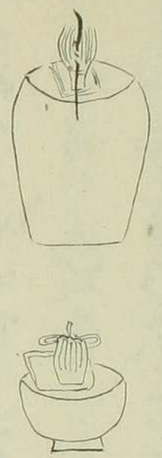
二十　茶入茶碗ノ大小立前ノ事

一茶入ヲ茶碗ニ入ル時又ハ盆ニ不載ル物ハ又ハ古物ハ物ノ

茶入ハ小ク黄ノ茶入ハ小ク

作為ニ記ス

四五ノ半茶入茶碗ノ大小立前図



茶筅小和巾を茶筅にかけて又二つ折て茶入を入れたる方の指の上に茶巾をかけしき茶碗にて茶杓を拭し在る

一絞黄の道具指り蓋のとして茶巾茶釜茶杓茶筅
少様に乱又は指海苔茶碗の中へ和巾
四方打又二つ折てこれの上へ少しかけ茶入和巾の上に茶水
指り茶少在こ茶道具茶碗茶入共に定へ置茶入を袋
掛して有る和巾を用る水指の上に重合し茶杓茶釜水
指の上より茶筅在こ茶巾三度畳茶の通り通る
ハ〇〇〇焼物ふ焼物を〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
少在ハ用ひ

二十一茶捕宮茶湯の図

一茶捕筒ハ桐り木にて茶こ細い三紙張ハ桐り野郎茶こ丁在

別書にあらず

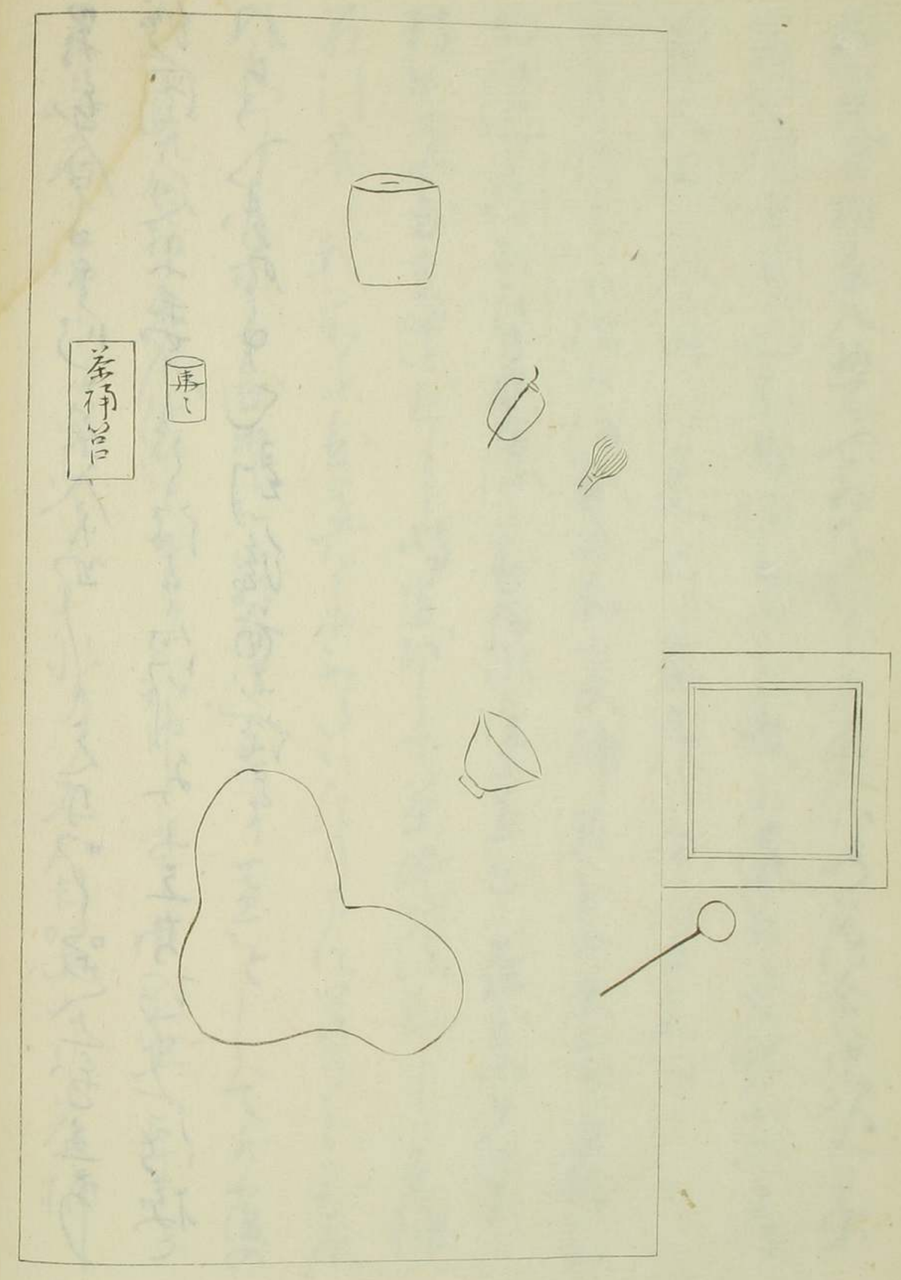
一有衡寸切茶入り濃茶と入れ袋少入茶稱器内へ入れ
又に入る濃茶薄茶ふ為茶を入れ都而て包茶の内又入る
時分に成て堅ふ上蓋に但二重部ふ下の茶ふ上蓋に四方半ふ
多指のおふ堅て部入合茶筅いふ少し隙深へ入れ茶筅ふ
別仕為り 終り

茶稱器後は共ふ三茶杓共通仕為略す

茶稱器

後世に為り茶筅ふ
世茶ふ仕ふ事

一茶子丸壺抹茶入れ申さるべき茶入り申さい茶中次又い茶
器雪吹等用ひ申さるべき為作法ふて小徹ふ濃茶を入れ袋ふ入て茶
茶を大徹ふ入て用ひる又ハ茶筅次ふ入申さるべ
一中立ち内り小指ハ茶合茶ふ茶桶茶筅こ
形仕立ち物を乃壁際ふ茶台ふ小度ふ茶を茶合ふ蓋を西ヶ組て
持出さるべ茶を中立ち一服宗匠ハて茶流ハ茶桶
茶巾寄ハ我前ふ茶を茶ふ入れ申さるべ茶
入れ出し茶ふ茶を茶ふ茶ふ茶を茶ふ茶を
ハ茶合茶入れ茶を茶ふ茶ふ茶を茶ふ茶を
茶を茶ふ茶ふ茶ふ



一何まゝにても茶をたてし後茶碗を
いれ茶筅を小指の前に合立おいたる事
一濃茶二度に成る事有り又濃茶を
のみ分ける事茶碗を口付迄茶を
茶入れ茶碗に茶筅を立置中の
流れを見る事茶を合流茶
をたてる時茶筅の孔に
茶碗を置き茶筅の孔
に湯を出し湯を
又湯を入れ茶筅
湯を出す事

釜の下をとり釜敷を合せ口の内小茶碗茶入を
〜茶巾小袋の内小茶碗を
を水の中墨二寸程小茶碗五つて又釜の下をとり
茶碗五〜て又釜を後へ茶碗の内を拭
茶巾にて拭し内し他実小釜をとり〜茶碗
和布にて拭をとり茶を取り茶を
茶杓をとり茶を拭の下茶の茶を
拭い茶入釜釜の下をとり茶碗
茶を拭て茶を〆拭い桐〜茶碗を
とり二種茶碗小茶碗を合せ茶碗を

尺の文に初茶碗五〜一礼有仕口いかにし拭茶入の時
茶を出し茶入り茶を出し茶杓袋をとり
又水をとり出る水中に茶碗の古き又い初休水杯
やし茶碗に入れ茶入をとり〜水をとり
柄小袋茶杓を茶小入をとり柄小袋を
をすきと茶を五つ茶入仕口に茶入を
茶小水をとり茶入口柄を拭
側〜茶を内茶入を茶〜水を
袋をとり茶碗に茶入を〆五つ上に
古茶碗に茶道おいて茶碗茶碗

多の茶碗に両様第六人色ノ茶碗に是は古来より茶碗色
とかて恒さ為早り茶碗に用ら数り了こ中り宗右手
前に茶書沢市し清茶茶碗し立ヤ山右及作り但清
茶を戸に付く湯を元如一ツ宗こ
一風炉了居り茶碗第六人色ノ方に到合立ちの明い茶
碗者ノ門ち茶を元りたり乃ち茶碗合を元あり　右の様物
少も形を異り三津へ門出て立ちて居り指のあ
指ふ茶合ち是一ツ居の風炉り今新し

貞安集一ノ下終